

2-6. 魚類調査

■調査目的

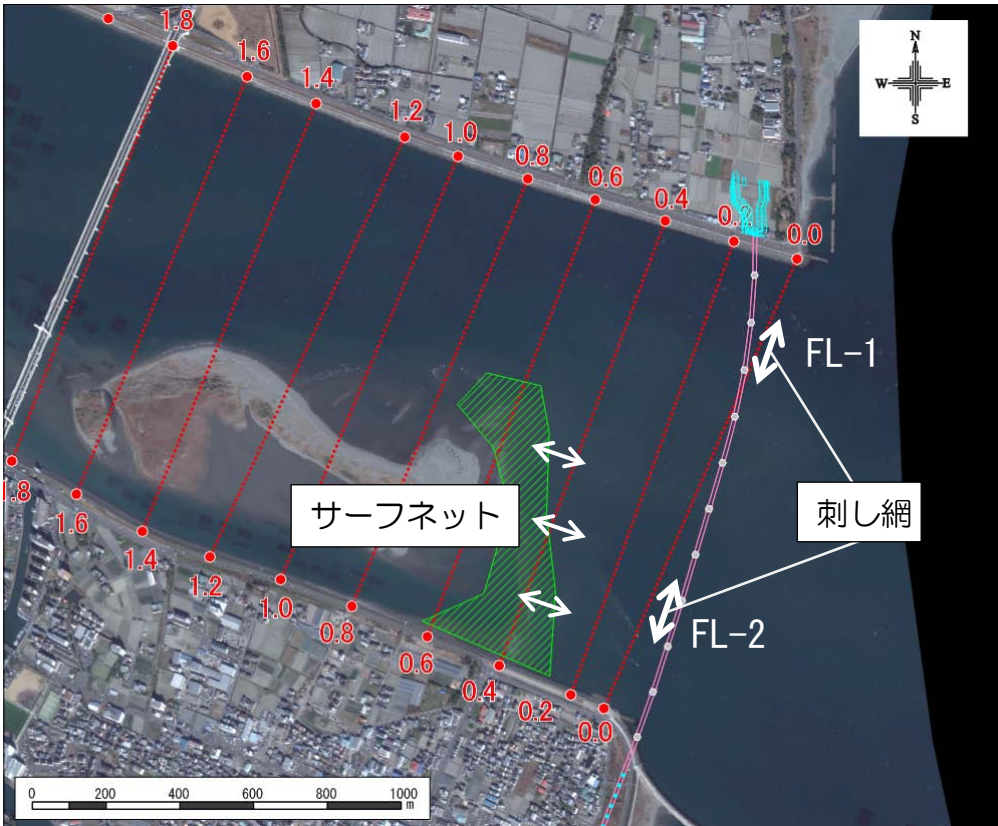
橋脚の存在に伴う魚類の生息状況の変化を監視する。

■2-6 魚類調査①



橋梁の存在により懸念される、魚類の出現状況の影響監視として、下記に着目した調査を行う。

- ・ 橋脚の存在による魚類の出現状況の変化



■監視項目

調査目的	調査の位置づけ	調査箇所	魚類調査	
			刺し網※1	サーフネット※2
橋脚の存在による魚類の出現状況の変化	直接的な影響把握	計画路線上：FL-1,2	○	—
	自然変動の把握	河口干潟の東側で3箇所	—	○

※1：刺し網(三枚網)は、夕方に設置し、翌日の朝に回収する。

※2：サーフネットは上げ潮と下げ潮でそれぞれ実施する。

■調査内容

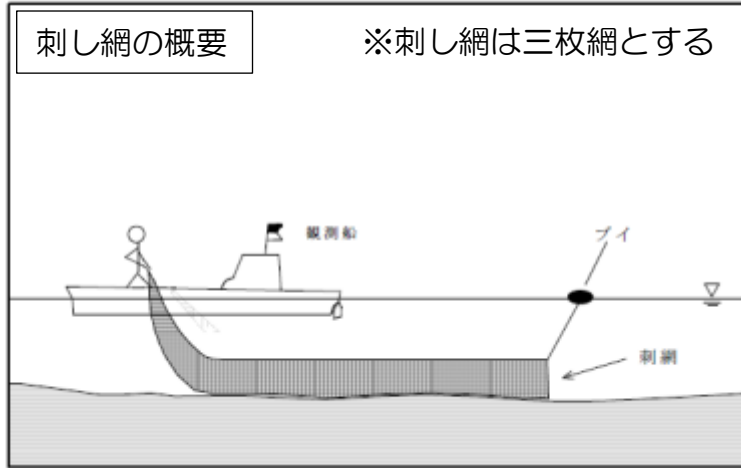
工事区分	調査内容	時期・頻度
事前調査 工事中調査 事後調査	種名, 個体数, 体長	年2回 ・ 夏季：6月の大潮の日 ・ 秋季：10月の大潮の日

※刺し網：吉野川渡河部付近の左岸側みお筋と中央部から右岸側の浅場の2箇所で実施。

サーフネット：底生生物調査の潮間帯定量調査と同様に、吉野川河口干潟の東側において任意の3地点で実施。



■調査方法



出典：H24徳土 徳島小松島港(沖洲外地区)徳・北沖洲4他 環境調査業務(4)(平成25年3月 徳島県)



出典：H22 環道 徳島東環状線徳・東吉野2～北沖洲4 環境モニタリング調査(153)(平成23年2月 徳島県)